

ブーゲンビリア Bougainvillea

一般財団法人みやぎ公園協会 クロスプランツ



ブーゲンビリアは南アメリカ原産の熱帯花木で、鮮やかな花が株を覆い尽くすほど開花し、しかも開花期間が長い（多くの品種で初夏と秋の二季咲き）という魅力的な植物です。熱帯花木の中では寒さに強く、国内の広い地域で特別な設備がなくても容易に栽培することができます。南国情緒あふれるブーゲンビリアをご家庭で楽しんでみませんか。

栽培環境（日当たりなど）

初夏から秋の成長期は直射日光が当たる場所で管理します。日光が不足すると開花しなくなります。最低温度が5℃程度になると休眠状態となるため、霜が降りる前に、玄関など寒さがしのげる場所に移動させます。休眠期は特に日光に当てる必要は無いため、霜の心配が無くなってから外に移動させます。

肥料・用土

一般的な草花用培養土で問題なく栽培することができます。水はけの良い培養土を用いるようにしましょう。肥料は1～数ヶ月効果がある緩効性化成肥料が使いやすくオススメです。成長期は数ヶ月おきに肥料を与え、株を充実させるようにします。

水やり

初夏から秋の成長期は土の表面が乾いたら、鉢底から水が出てくるほどしっかりと水をやります。冬の休眠期は水のやりすぎによる根腐れが発生しやすいので控えめの水やりを心がけます。

植え付け・植え替え

初夏に二周りほど大きな鉢に植え替えることで、さらに大きく成長させることができます。植え付け時の注意点は根鉢を崩さないことです。ブーゲンビリアは根が弱く傷つきやすいため、根は大事に扱きましょう。

その他の作業

生育が旺盛な成長期はいつでも剪定することができます。伸びすぎた枝は邪魔にならない長さで切り詰めましょう。こうすることで枝の数が増え、花数も多くなります。

ふやし方

さし木を行う際は、5月から6月に枝を2〜3節つけて切り、赤玉土などの肥料分が入っていない清潔な用土にさします。

病気と害虫

病害虫はほとんど発生しませんが、春先の芽だし時にアブラムシがつくことがあります。気になるようでしたら、筆などで落としてしまうか、殺虫剤を散布します。